

平成 28 年度揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会の検討事項と基本方針(案)

1 検討会設置の背景

平成 18 年3月の中央環境審議会 大気環境部会報告「揮発性有機化合物の排出抑制に係る自主的取組のあり方について」において、「VOC 排出抑制対策の進捗状況を把握するため、(中略) VOC 排出インベントリの整備・更新を行う必要がある」とされた。それを受け、環境省では揮発性有機化合物(VOC)排出インベントリ検討会を設置し、年度ごとの VOC 排出量を「排出インベントリ」として作成してきた(表 1)。

また、平成 24 年 12 月に中央環境審議会から答申が示され、VOC 排出抑制制度の継続が適当とされ、VOC 排出抑制制度の継続に伴い、引き続き、VOC 排出状況の把握を実施していくことが必要とされている。

⇒ 平成 27 年度の推計方法及び推計結果については[参考資料1](#)参照

表 1 VOC 排出インベントリにおける VOC 排出量の推移

年度	VOC 排出量 (t/年)	削減率 (対基準年度)
平成 12 (基準年度)	1,398,179	—
平成 17	1,090,442	22.0%
平成 18	1,064,559	23.9%
平成 19	1,004,766	28.1%
平成 20	901,605	35.5%
平成 21	820,172	41.3%
平成 22 (目標年度)	775,228	44.6%
平成 23	746,721	46.6%
平成 24	723,034	48.3%
平成 25	721,099	48.4%
平成 26	691,319	50.6%

注:平成 25 年度までの VOC 排出量は、過去に遡及して VOC 排出量の推計方法を変更した場合があるため、過去に公表された排出量と若干異なっている場合がある。

2 平成 28 年度検討会における検討事項

VOC 排出インベントリ全体に係る課題のうち、「成分不明」の VOC 排出量については、シミュレーション等の予測精度向上等に必要不可欠であることから、昨年度に引き続き優先的に対応することとしたい。

また、発生源品目別の課題のうち、「燃料(蒸発ガス)」(コード:201)については、推計方法の見直しが必要であることから、昨年度に引き続き検討課題としたい。

本検討会では、以下の検討事項について検討することとしたい。

(1) 燃料(蒸発ガス)に係る推計方法の見直しについて

燃料(蒸発ガス)(コード:201)のうち、給油所において、タンクローリーから地下タンクに燃料を受け入れる際に排出されるガス(受入ロス)、及び車両給油時に蒸発するガス(給油ロス)に係る排出量の推計方法の見直しを行う。推計方法の見直しを行う際は、平成 27 年度調査において課題として挙げられた給油ロス排出係数の推計式の適用・構築方法を中心に検討を行う。

⇒検討内容の詳細は資料2参照

<想定される論点>

- 使用する排出係数の推計式 など

(2) 「成分不明」の VOC 排出量について

VOC 排出インベントリにおいて、「成分不明」とされている排出量の個別成分への割り振り方法を検討する。検討にあたっては、平成 27 年度調査において課題とされた、石油系混合溶剤の成分分析方法について検証した後、適切な分析方法を検討するとともに、国内に流通している主要なクリーニング溶剤を対象として、成分分析を実施し、インベントリに反映する。

⇒検討内容の詳細は資料3-1、3-2 参照

<想定される論点>

- 石油系混合溶剤の分析方法、分析対象、分析結果のインベントリへの反映方法
- 「成分不明」の細分化方法 など

3 検討会のスケジュール(案)

表 2 今後のスケジュール(案)

開催回	開催時期	主な議題
第 1 回	平成 28 年 11 月 16 日(本日)	① 平成 28 年度検討会における検討事項とスケジュール ② VOC排出インベントリの推計方法 ③ 成分分析等によるVOC排出量の細分化
第 2 回	平成 29 年 1 月上旬～2 月中旬	① VOC排出インベントリの推計方法 ② 成分分析等によるVOC排出量の細分化
第 3 回	平成 29 年 3 月頃	① VOC 排出インベントリの結果について